

## 相馬の温泉について 温泉ソムリエ・鎌田祥史

温泉ソムリエの鎌田祥史（かまたよしひみ）と申します。以前、隣の岩木地区で地域おこし協力隊をしており、その頃から相馬地区の皆様にも大変お世話になっております。今回は、私の専門分野である温泉の視点から、相馬の温泉について書かせて頂きました。

### 相馬の人々の温泉事情

青森県は全国の中でも温泉が豊富な土地であり、普段から温泉へ足繁く通う人もたくさんいる。その中でも津軽には嶽温泉や大鰐温泉など歴史ある温泉が多く、江戸時代には弘前藩主によって湯治や入浴のために保護されていた。例えば大鰐では、温泉を樽に汲んで馬に運ばせ、弘前城まで運び湯をしたという記録が残っている（大鰐町史より）。

その後、温泉や湯治の文化は庶民にも広まり、農家が農閑期に湯治をして心身を癒すためにも重宝された。相馬地区は古くからの温泉地がある場所ではないが、相馬に住む人々も昔から温泉には親しんでいたようだ。相馬村誌の中には「丑湯」という記載があり、『土用の丑の日、主に年寄連中が近くの温泉場に湯治にい

星と森のロマントピア



相馬総合支所に隣接する御所温泉。毎週水曜日が定休日

くか、日頃の疲れをいやすために湯につかりに行くことが多かった。この日温泉に入るのと長生きするという。』と紹介されている。

現在相馬では、支所に隣接する「御所温泉」と、水木在家の「星と森のロマントピア」の二つの温泉が営業している。両施設とも先日まで源泉設備のメンテナンスをしていたが、現在は営業再開している。ちなみに御所温泉の隣にはかつて宿泊もできる温泉施設「力荘」もあったが、二〇一一年に営業を終了している。

### 相馬の「湯口」とはなにか

ところで、相馬には「湯口」という地名がある。北は岩木川沿い、J A相馬村の特産物直売センター「林檎の森」あたりから、南は藍内地区に隣接するあたりまでの地域だ。合併前の弘前市および旧岩木町と隣接しており、相馬の玄関口ともいえる場所。この場所になぜ「湯口」という名前がついているのだろうか。

「湯口」といわれると私などは、温泉浴場で「湯の出てくる口」のことが最初に思い浮かぶ。しかし、相馬の「湯口」地区に温泉浴場は無いし、過去に温泉旅館などがあった記録も無い。ちなみに他の県に目を向けてみると、例えば岩手県花巻市にも「湯口」という地名があり、こちらには大沢温泉や志戸平温泉という古くから営業している温泉がある。

これまでは相馬で「湯口」の文字を見かけても特に気にすることは無かったが、今回相馬の温泉について書いていた時に、改めてこの「相馬の湯口」の存在に気づいた。どうしてここに湯口があるのだろう。今回、相馬の地域おこし協力隊や湯口在住の郷土史家の方々の力を借りながら調査したところ、地名の由来についていくつかの説が出てきたので、その内容を紹介したい。

（裏面に続く）

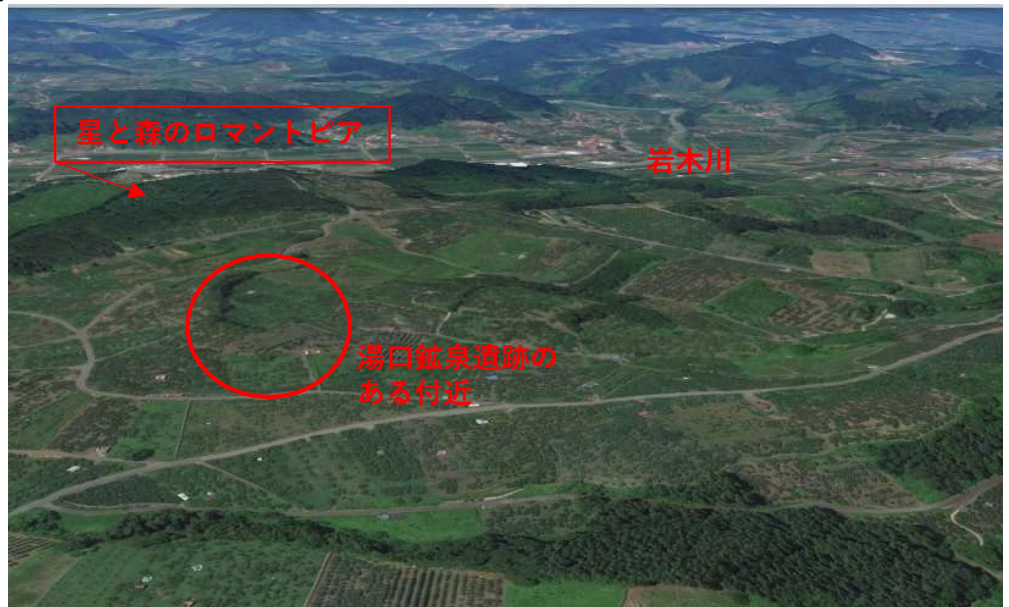
## 相馬の温泉について

「湯口」という地名の由来について、一つ目の説が「鉱泉説」。湯口地区の中の一ノ下り山に『湯口鉱泉遺跡』という縄文時代の遺跡がある。ここにはかつて、冬でも凍らない暖かい水（鉱泉）が湧き出しており、そこから湯口という地名になった、という説だ。なお「相馬村誌」第1章の「相馬村の歴史」の中でも、「湯口鉱泉遺跡」について『元、ここは湯泉で、湯口の名はこれより起ったという。』と紹介されている。

二つ目の説は「蹄鉄説」。金属を加工する鑄造業の業界用語で、金属を高温で溶かし、赤くどろどろになった液体を「湯」や「温泉」と呼ぶそう。昔、相馬村の入り口付近には馬の蹄鉄を作っていたところがあり、ここで鉄を溶かした「湯」あるいは「温泉」を扱っていたため、湯口という地名になったという説である。ここまでの二つの説は、先に述べた郷土史家の方より教えて頂いたものである。

さらに三つ目が「棚内（トチナイ）川説」。これは『津軽地名の語源（あすなろ舎）』という本の中で見つけた仮説だ。本によると湯口の由来について、『トチナイ川が岩木川へ注ぎ込む「湧出口」の意であろう。岩木川へ注ぎ込む川口が狭いので水流が岩木川と合流するといふように、岩木川の流れを突き刺す呈をなすので、そのような地名が生じたのである。』とある。内容は著者の独自調査に

湯口鉱泉遺跡（弘前市湯口一ノ下り山）は縄文時代後期・晩期の遺跡で、集落跡やヒスイ大珠などが出土している湯口長根遺跡（縄文時代後期・晩期）の南に位置する（©Google Earth）



鎌田祥史(かまたよしふみ)：青森県青森市（旧浪岡町）出身。つがる市在住。2020年に温泉ソムリエとして独立開業し、青森の温泉をテーマとした温泉セミナー・講演・執筆・企画など行っています。

## 【参考文献】

相馬村誌編集委員会編『相馬村誌』（相馬村）、『大鰐町史 中巻』（大鰐町）、『青森の公共温泉』（（有）無明舎出版）、松田弘州著『青森地名双書①津軽地名の語源』（あすなろ舎）  
協力：澤田建雄さん（郷土史家）

基づく仮説であるが、こちらにも面白い視点だと思う。  
以上、相馬の「湯口」という地名に関する由来について、三つの説を紹介した。まだはっきりと分かっていない部分もあるが、それぞれ当時の歴史や風景に思いを馳せることができ、興味深い。個人的には一つ目の「鉱泉説」について、縄文遺跡の中に温泉があったのかもしれないという所に非常にロマンを感じている。現地を見る機会があれば是非とも行ってみたい。  
今後も「相馬の湯口」については研究を続けたいと思っているので、また新しい情報があれば書きたいと思う。相馬の湯口について情報があれば、ぜひお知らせ頂きたい。